

## 第5回宗像市行財政改革推進委員会会議録

日時	令和2年12月9日(水)14時00分～	会場	103A会議室
委員	■安部 武彦    ■今川 泰志    □實原 隆志    ■下田 真也 ■常富 公一    ■広田 葉子    ■山下 永子                      (五十音順、敬称略)		
市	■長谷川経営企画部長 (事務局：行革アセットマネジメント推進室)    ■溝口    ■尾園    ■櫻井		

### 1 開会あいさつ

### 2 協議事項

(1) 第3次宗像市行財政改革大綱の総括(案)について(資料1)

#### 【事務局】 ■第3次宗像市行財政改革大綱の総括(案)について説明

以下、質疑応対等

#### 【委員】

・8ページ目の総括の中で、次期行政改革では生産性向上につながるICT化や官民連携といった新たな手法を取組みたいと書かれているが、それ以上に、企業誘致等が厳しい中で、新しい人材を活用し、新しい取組みを創出するような収入を生み出す取組みも行政改革に入っているとよい。

市民・商工会等の知恵を活用し、今ある資源の中で新しいものを作り出すことも行財政改革につながるのではないか。このような取組みも柔軟に取り入れて、お金が無いということよりも、新たなものを生み出し、次につなげていくことを記載していいのではないかと。

#### 【事務局】

・第4次行財政改革アクションプランでは、新しいプランの創出も含め、取り組んでいくこととしている。その旨を記載してはどうかというご提案であるため、記載の仕方については検討する。

(回答)

⇒ご提案内容は、別の計画(宗像市まち・ひと・しごと創生総合戦略、宗像市総合計画)の中で体现していく。

#### 【委員】

・2ページの効果額目標額が、当初頂いた資料の金額よりも730万増えているよう。その確認をお願いしたい。

#### 【事務局】

・効果目標額については確認をし、連絡する。

(回答)

⇒平成28年度に目標額を変更(18億7001万→18億7731万)した際、当初プランに反映していなかった。

**【委員】**

・年度別目標達成度の説明（A～D）があるが、金額に対する達成度なのか。こういった評価の仕方を確認したい。

**【事務局】**

・年度別目標達成度については、基本、金額に対しての達成度である。プロセスについても一定の評価をしないといけないのではないかとご意見を頂いていたため、平成29、30年度についてはプロセスに対する評価も入っている。ただ、プロセス評価も明確な基準はないため、第4次の行革1年目の報告の時には、プロセス評価の基準を示せるようにしたい。平成31年度については、金額で評価をしている。

**【委員\_\_事務局の回答に対しご意見】**

⇒定量的な取組みであれば、評価を出せると思うが、定性的な取組みであれば数字が出てこないはず。プロセス評価は難しいと思うが、成果的に見るためには一定の基準を作り出したほうがよい。

**【委員】**

・3ページ目からの個別アクションプランの表だが、前ページの目標額、達成度、達成額を載せているように、個別プランの表に目標額と達成率を入れたほうが分かりやすいのではないかと。

**【事務局】**

・入れる形で修正する。

(回答)

⇒達成率は、目標額に対する効果額についての値である。効果額でなく、プロセスで評価をしているところもあるため、取組み内容をより具体的に載せている各年度アクションプランの実施結果でご確認いただきたい。

**【委員】**

・4ページ目「No.7 国民健康保険税率の見直し」

5年間の実施状況で、適切な税率改定を実施と記載している。ある程度は達成出来たのかどうかがこの記載では読み取れない。

**【事務局】**

・記載の仕方を修正する。

**【委員】**

・4ページ目「No.8 公共施設等の使用料の見直し」

5年間の実施状況で、平成31年度の新料金が効果額に入っているのか。

**【事務局】**

・反映している。補足説明をすると、昨年度はコロナウイルスの関係から利用者が減っていることと、複数の施設の修繕が発生し必要経費がかかっている影響がある。

【委員】

- ・ 4 ページ目「No.9 その他受益者負担の適正化」

インフルエンザ予防接種の自己負担金増額は、いくらからいくらに変更となったのか教えて頂きたい。

【事務局】

・平成28年度1,000円であった自己負担金額を、1,400円に増額している。金額増加の影響により、受診者数が減っていることはない。近隣の自治体の状況踏まえながら増額している。

【委員】

- ・ 4 ページ目「No.10 施策評価と各部による事務事業の見直し」

効果額950万円は、平成30年度事業廃止1件分のみかどうか。

【事務局】

- ・平成30、31年度の2つの事業廃止の金額であるため、記載を修正する。

【委員】

- ・ 4 ページ目「No.11 補助金・負担金の見直し」

額の大きなものでどういったものがあるか、教えて頂きたい。

【事務局】

住宅用太陽光発電システム設置補助金3,000万円、入所園児傷害保険補助金 約73万円  
大島花火大会運営補助金 50万円、その他、削減したものとして、世界遺産市民団体活動交付金、人権対策推進補助金、九州大道芸まつり補助金がある。

【委員】

- ・ 5 ページ目「No.14 宗像終末処理場消化ガス発電の導入」

経費を差し引いた効果額かどうか。

【事務局】

・効果額は、経費を差し引いて出している。年間削減電力費から年間維持費及び発電設備の初期投資額を耐用年数で按分し、差し引いた金額である。15年耐用であるため、設備投資額は小さい。減価償却という形で引いている。

【委員】

・他の委員が初めに発言されていたが、宗像という地の利をいかした攻めがあってもいいのではないか。

・1 ページ目の2. 改革基本方針・基本理念のところについて、平成27年度作成当時の話とは思いますが、基本方針の取り上げ方が異なるのではないか。また、「持続可能な行政経営」と「公共施設等の適切な維持更新」が並列に書かれているが、「持続可能な行政経営」は大きな話であるのに対し、「公共施設等の適切な維持更新」は具体的に書かれているため、大・小分類して示していく上では異なるのではないか。具体的な取組みとして、財政基盤の堅持、効率的な行政経営、公共施設等の適切な維持更新とするのではないか。

**【事務局】**

- ・ご意見として参考にさせていただく。

**【委員】**

・1 ページ目「はじめに」の箇所に、「第2次宗像市総合計画のもと、魅力あるまちを目指し」と記載があるが、当初頂いた第3次の大綱では「ときを紡ぎ 躍動するまち」と記載がある。

また、「子育て世代に選ばれる都市イメージの確立」が、以前の大綱では「都市ブランドの確立」と記載しているため、変えた理由を伺いたい。

**【事務局】**

- ・文言を併せた記載に修正する。

**【委員】**

・「老朽化した公共施設等の適切な維持更新」と記載があるが、「公共施設等の総量圧縮、複合化、再配置。公共施設等の長寿命化、維持管理費用の平準化等」と記載したほうが分かりやすい。

**【事務局】**

- ・分かりやすいよう修正する。

**【委員】**

・2 ページ目に年度別効果額が記載されているが、達成率は少しずつ低下しているもののそれだけ市職員が努力している成果と考えられる。効果額の減少傾向から第4次アクションプランにあるように、定期的に行うものと、抜本的に行うものと少し色分けをしてやっていったほうがよい。

**【事務局】**

・削減額が小さくなってきているのは、1、2次行革を進めた成果であると考えているが、委託料や補助金等の歳出抑制の取組みは成果が出にくくなっているも現実である。

切り口を変えてやっていかなくてはならないと考えていること、また、新しいICT等の取組みを進め、職員の時間外労働を減らす等といった取組みもしていきたいと考えている。

**【委員】**

・7 ページの今後の見通しに、「計画的かつ効率的な行財政改革の取組みと公共施設の総量圧縮や維持管理費用の削減などにより財源確保に努める必要がある」と記載しているが、強力に進めて頂きたい。理由は、他の市町村、例えば豊田市でも総量圧縮を進めており、体力あるうちにしておかないと出来なくなるという、危機感を持ってやっていると聞いている。市からの働きかけばかりではなく、市民自身に考えて頂くように進めていかないと、市民が取捨選択し切り盛りして進めていかないと、公共施設を廃止していくのは難しいのではないかと。

**【事務局】**

・先進自治体は市民を巻き込みながら進めており、また宗像市も今年度から行革アセットマネジメント推進室が出来たことから、行革大綱と同時期にアセット（総量圧縮関連）の計画を見直ししている。目

標数値を掲げて計画を進捗していくが、市民も一緒に考えていくことが重要であるため、そのように進めていきたい。

#### ▽事前ご意見（ご参考）

##### 【委員】

・成果が着実に出ているという結果だと思うが、他方で、削減できた歳出が、別のところ（ないしは主体）に転嫁されていないのかは気になっている。

行政サービスの低下や行政実務の低下、職員の不足等、ある種の「副作用」が発生していないのかを、市民の方のご意見もうかがいながら検討しておく必要があると思う。

##### 【事務局回答】

・転嫁されないよう、毎年度財政課・経営企画課が実施している実施計画・予算査定で確認していく。  
・PDCAを上手く回し、行政サービスの低下や行政実務の低下、職員の不足等にならないよう、市民の方のご意見もうかがいながら進めていく。

#### ■【事務局】第4次宗像市行財政改革アクションプラン進捗状況について説明

以下、質疑応答等

##### 【委員】

・「はんこレス」の取組みについて

：現在実態調査中とのことだが、市役所内の調査であるが、時間がかかるのか。

##### 【事務局】

・はんこレスは種類が多いため、時間がかかっている。先んじて実施した福岡市で4500種類あった。そのうちの3800種類をはんこレスにした。残り700種類については、法令等で出来ないとした。福岡市ではこの調査から結果を出すのに2年かかっている。宗像市でも同等の行政サービス数から想定すると3000種類程あると考えている。しかし、庁内調査をしないと実際は分からない。また、1課で何百種類の書類も考えられる。よって今は現状の洗い出しをしている状況。その中で、すぐに出来るもの（＝市の裁量）から、はんこレスに切り替えていく。この繰り返しになると考えている。

##### 【委員】

・「子育てワンストップサービス」の取組みについて

：パソコンを持っていない市民が大変ではないか、 아이폰等携帯でやれるのか、どういった申請のやり方が出来るのか。

##### 【事務局】

・ 아이폰等のモバイル端末での申請も可能。マイナンバーカードで申請ができるよう進めている。当市の取得率は30%。マイナンバーカードを取得しないと使えないシステムであるためハードルはあるが、子育て世帯は受け入れやすいと考えている。

**【委員】**

- ・「マイナンバーカード申請書類保存」の取組みについて  
：情報漏洩とまらないセキュリティ面が気になるが、9月に補正契約と記載がある。こういった契約なのか教えて頂きたい。

**【事務局】**

- ・セキュリティ面の問題であるが、市民課で取り扱っている住民基本情報が入っているシステムと同じ会社が開発したシステムである。委託するとなると、情報漏洩の恐れがあるため、住民基本情報を管理しているシステム会社との契約に、新たに「マイナンバーカード申請書類保存」を追加したということになる。

**【委員】**

- ・第4次アクションプランで目標額を設定しているが、今回の優先的に取組んでいるプランには出てきていないものがある。7プランが取組みプランにあがっていない。そのプランをどう進めていくのか説明頂きたい。

**【事務局】**

- ・今年度、市でもコロナウイルスの影響が大きく、国率先でICTの施策が大きく動き始めた。地方創生臨時交付金も自治体に大きく割り振られた。ICTについては第4次の取組みとして入れていたが、現在取り組んでいるICTの内容は、想定よりも質的・量的に非常に大きな取組みとなっている。国の流れと、交付金が出ていることから、まずはICTにしっかり取り組むことで効率化を図り、職員の時間外労働削減といった人件費削減を先に生み出していきたいため、優先的に取り組んでいる。一方で、今年度から取り組むこととしていたものは、非常に大きな取組みでもあることから、次年度以降しっかり取り組んでいく予定である。

**【委員】**

- ・国がデジタル化を進めているため、ICTの取組みに今年度は注力していることを、資料冒頭にでも記載頂きたい。

- ・ICT化を進めるポイントは2つあると考えている。1つ目は、トップが責任者となり進めていくこと。大きな変革のときは、市長即ちトップの率先垂範が重要である。2つ目は、これを進めていくためには市民に対するPRも必要である。市民の中にはスマートフォンを扱ったことのない人がまだ多数いる。その方に対するPR・教育も並行してやらないと、マイナンバーカードの取得が3割であったことと同じ結果となるのではないかと。ギブ&テイクの方法で進めていくことも考えて頂きたい。

**【事務局】**

- ・ICTの取組みに今年度は注力していることを資料に追加する。
- ・ICTを進めていく新部署で、ビジョンを掲げ、計画をつくっていく。トップが率先して進めていくこと、また計画やプランを市民と共有していくこと、セキュリティも含めたところでしっかりとした仕

組みを作っていきたい。

**【委員】**

・公共施設のあり方検討と包括管理委託の導入検討で、「プレサウンディング・本サウンディング」の記載がある。サウンディングという言葉が初めて出てきたため、説明して頂けないか。

**【事務局】**

・サウンディングは、事業発案段階や事業化検討段階において、事業内容や事業スキーム等に関して、直接の対話により民間事業者の意見や新たな事業提案の把握等を行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法である。

分かりやすいよう、記載の仕方を変更する。

**【委員】**

・ICT関連で国の予算措置がきていると思うが、それをアクションプランの成果・効果額に含めるのか。

**【事務局】**

・国の支援金を効果額として入れることはしていない。例えばRPAの活用により、人件費がどのくらい削減出来たのかを効果額としてみている。

(3) その他

**【委員】**

・今後の開催予定について教えて頂きたい。

**【事務局】**

・今年度は今回で終了予定だが、委員の任期（来年の7月）までにもう1回は開催する予定である。コロナウイルスの影響次第ではあるが、補助金等の見直しや今年度のアクションプランの報告が必要だと考えている。

**【委員】**

・行革の取組みで、オンライン会議も進めていって頂きたい。

**【事務局】**

・推進していく。